馬耳東風

筆者は８年前から獣医学部１年生対象の獣医学概論の授業を担当している．毎年初々しい学生と接し，自身の職域の紹介，将来の展望を講義することに心から喜びを感じ，楽しみにしている．

しかしこのコロナ禍，残念なことに２年前からオンラインでの授業となっている．モニター越しの講義は今ではもう当たり前となってしまったが，昭和生まれの身としてはまだなかなか馴染めない．今年こそは学生の皆さんの前に立ってコロナ前の感動を味わいたいと願っているが果たしてどうだろうか？

さてその講義，伴侶動物医療分野の解説・展望を求められているわけだが，その中で業界を取り巻く未来予測として以下の４つを解説してきた．

①いわゆる2025年問題として，超少子高齢化時代への突入

②戦争や世界的な経済恐慌にいつでも巻き込まれるリスク

③グローバル化

④AIの活用

このようにあげてはみたものの，さすがに②の可能性は限りなくゼロに近いのではと内心思い，また起こらないことを願いながら講義を続けてきた．

しかし，その願いも届かず，２月にロシアのウクライナ侵攻が始まり，それに伴う世界経済の混乱が現実のものとなってしまった．この原稿を書いている現在もまだまだ出口の見えない状況が続いている．一刻も早い事態の収拾を切に願うばかりである．

そしてすでにお気づきとは思うが，今般の新型コロナウイルス感染症に代表される感染症の世界的パンデミックを上記予測しきれていないことはお恥ずかしい限りであり，この点は学生諸君にお詫びしなければならない．危機管理とは，実際には絶対に起こらないであろうことを想定すること，と聞いたことがある．災害だけではなくありとあらゆる分野に思いを巡らす必要がある．そのような観点でわれわれの職域を見渡してみると，以下のことが気になって仕方がない．

環境問題，動物福祉，培養肉等の技術革新の観点からの産業動物のあり方の議論，わが国の食料自給率の低下，タンパク源確保の議論，公衆衛生分野における進出機会の喪失，犬猫の急激な飼育頭数減，飼育願望の低下による業界規模の大幅縮小の危機，メタバースがもたらすリアルと現実の同化によるいわゆる生き物の意義．

会員諸兄からは何を荒唐無稽な，とお叱りを受けるかもしれないが，危機管理のスタートは実はこのようなところにあろうと個人的には考える．

感染症のパンデミック，戦争，経済の混乱は今まさにわれわれ自身に降りかかる現実の問題となってしまった．なんとかここから抜け出さなければならない．

果たして今の延長線上にわれわれの未来はあるのか？次世代に対して今できることは何か？　身の回りだけではなくグローバルな視点で考え，行動を起こさないと取り返しのつかないことになるとどれだけ考えられているか．

いわゆる「ゆでガエル理論」によってこのまま業界が衰退の一途を辿ることはなんとしても避けなければならない．そのためにも会員諸兄と，祈るだけではなくアクションを起こすことの大切さを共有していきたい，などと考えながら久しぶりに人出の戻った今年のGWを過ごしたのであった．（も）